

1935	昭和10年	澁澤敬三氏、白鳥庫吉博士を中心に財団法人日本民族博物館の設立を計画
1964	昭和39年 7月	日本民族学会、日本人類学会、日本考古学協会、日本民俗学会および日本民族学協会は、「国立民族学研究博物館設置」について、文部大臣など関係方面に要望
1972	昭和47年	民族学研究博物館の調査に関する会議(座長:桑原武夫)は、文部大臣に「民族学研究博物館の基本構想について(報告)」を提出
1973	昭和48年 4月	国立民族学研究博物館(仮称)の創設準備に関する会議および創設準備室を設置
1974	昭和49年 6月	国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和49年法律第81号)の施行により、国立民族学博物館が創設(管理部3課6係、情報管理施設2係、5研究部10研究部門)
	8月	パプアニューギニアをはじめとして、海外における標本資料などの収集を開始
1975	昭和50年 12月	旧文部省史料館が所蔵していた民族資料28,432点を国文学研究資料館から移管
1977	昭和52年 11月	国立民族学博物館新営工事(28,778㎡および環境整備)が竣工、開館式典を挙行。オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、音楽、言語、東南アジア、東アジア(日本の文化)展示およびビデオテークを一般公開
1978	昭和53年	民族学研究の拠点として、長期的・計画的に取り組む「特別研究」を開始
1979	昭和54年 3月	第4展示場(1,272㎡)が竣工、東アジア(日本の文化)展示を拡充し一般公開。11月に中央・北アジア、東アジア(アイヌの文化)展示を一般公開
1981	昭和56年 2月	講堂(3,704㎡)が竣工
1983	昭和58年 3月	第8展示場など(4,816㎡)が竣工。11月に東アジア(朝鮮半島の文化、中国地域の文化)展示を一般公開
1984	昭和59年 11月	創設10周年記念式典を挙行。『国立民族学博物館十年史』を刊行
1987	昭和62年	開館10周年を迎え、記念行事を実施
1989	平成元年 4月	総合研究大学院大学文化科学研究科(地域文化学専攻・比較文化学専攻の二専攻)が本館を基盤として設置
	6月	特別展示館・書庫棟(5,292㎡)が竣工
	9月	特別展示館竣工記念第1回特別展「大アンデス文明展—よみがえる太陽の帝国インカ」を一般公開
1993	平成5年 8月	本館増築・共同研究棟(891㎡)が竣工
1994	平成6年	創設20周年を迎え、記念行事を実施
	6月	地域研究企画交流センターを設置(平成17年度末に廃止)
1995	平成7年 1月	阪神・淡路大震災による被害のため、展示場を45日間にわたり全面閉鎖(2002～2003年に耐震改修工事を実施)
	4月	COE(「卓越した研究拠点」)の研究課題「地球時代におけるマルチメディアによる新しい民族学研究の展開に関する先導的研究」開始(平成11年度末に終了)
1996	平成8年 3月	第7展示棟(6,439㎡)が竣工。11月に言語展示、東南アジア展示のリニューアルおよび映像の広場、ものの広場、南アジア展示を一般公開
1997	平成9年	開館20周年を迎え、記念行事を実施。11月に記念式典を挙行
1998	平成10年 4月	大学共同利用機関組織運営規則の一部を改正する省令(平成10年文部省令第24号)の施行により、5研究部を改組(4研究部、1研究施設)
1999	平成11年 5月	みんなく電子ガイドおよび学習コーナー完成、一般公開
2000	平成12年 3月	東アジア(朝鮮半島の文化)展示リニューアル、以降2003年まで本館展示の一部リニューアルなど
2004	平成16年 4月	国立大学法人法(平成15年法律第112号)の施行により、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が発足 4研究部、1研究施設を、現行の3研究部、2研究施設に改組 研究者コミュニティの代表を含む共同利用委員会による審査システム、公募の拡大など共同研究の体制を整備 本館の組織をあげて取り組む「機関研究」を開始
	6月	創設30周年記念事業として『国立民族学博物館三十年史』の編集を開始(平成18年3月刊行)
2006	平成18年 4月	民族学資料共同利用窓口を設置
2007	平成19年	開館30周年を迎え、記念行事を実施。11月に記念式典を挙行
2008	平成20年 2月	日本文化人類学会と連携事業に関する協定を締結
2009	平成21年 3月	西アジア、アフリカ展示を新構築、一般公開
2010	平成22年 3月	音楽、言語展示場を新構築、一般公開
	4月	国際学術交流室の設置など新しい体制を整備
2011	平成23年 3月	オセアニア、アメリカ展示を新構築、一般公開
2012	平成24年 3月	ヨーロッパ展示、インフォメーション・ゾーンを新構築、一般公開
2013	平成25年 3月	東アジア(日本の文化「祭り」と「日々の暮らし」)展示を新構築、一般公開
	4月	監査室、梅棹資料室を設置し、新しい体制を整備
2014	平成26年 3月	東アジア(朝鮮半島の文化、中国地域の文化、日本の文化「沖縄の暮らし」と「多みんぞくニホン」)展示を新構築、一般公開
2015	平成27年 3月	南アジア、東南アジア展示を新構築、一般公開
2016	平成28年 6月	中央・北アジア、東アジア(アイヌの文化)展示を新構築、一般公開